

学校支援を積極的に進める

地域社会と連携し子どもの成長を支援するPTA活動

豊明市立沓掛小学校PTA

1 はじめに

本校は、豊明市北東部に位置し、豊かな自然と歴史に恵まれ、子どもたちの成長に適した環境が整っている。学区には桶狭間の戦いの際、織田信長が今川義元の動向を監視するために築かれた沓掛城の跡地がある。現在では、城跡の一部が公園として整備され、土塁や堀跡の遺構が残されており、当時の様子を偲ぶことができ、地域の歴史教育や観光資源としても親しまれている。



【沓掛小学校校舎】

このような地に、明治6年本郷正副寺内12番義勇学校として発足した本校は、昨年創立150周年を迎えた。令和6年10月現在、児童数368名、学級数15（特別支援学級2）の小学校である。校訓「ゆたかな心 強いからだ」のもと、知・徳・体の調和のとれた、心豊かな児童の育成を目指している。また、全職員が「チーム沓掛小学校」として協働し、探究心と情熱をもち、知恵と工夫を凝らした教育活動を実践している。

家庭や地域とのつながりも深く、シルバーの方による登下校時の見守りボランティアや学習や読み聞かせをはじめとしたPTAボランティアでお世話になっている。また、三代に渡って本校卒業生という家庭も多く、学校に対して協力的である。

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

本校PTAは、運動会運営補助、給食試食会、ふれあい交流会等の活動が続けてきた。しかし、様々な家族形態や共働き家庭の増加により、PTA活動への参加に負担を感じるという意見や、委員の選出に苦勞するといった声も聞かれるようになり、PTA活動への協力を得ることが難しくなりつつあるのも現実である。

そこで、「できるときに できる人が できることを 楽しんで」を合言葉に、保護者の負担感を軽減させながら、学校と家庭・地域が協働する方法を工夫し、子どもたちの健やかな成長を支援することが大切だと考えた。

(2) P T A組織

本校のP T Aは役員5名、地区委員24名、学年委員8名の計37名で構成されている。

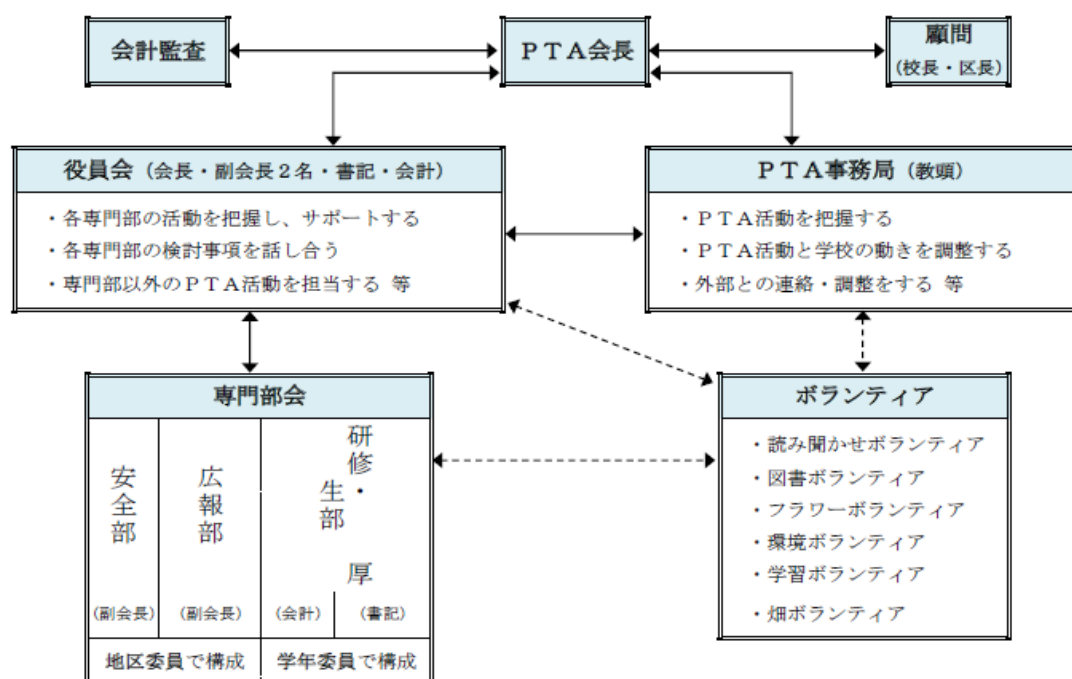
① 地区委員は、安全部、広報部を組織し、それぞれ次のように活動を計画し、実施している。

- ・安全部…地域の見回りと安全啓発運動の実施
- ・広報部…年間に3回P T A通信「風と光P T A」を発行

② 学年委員は、研修・厚生部を組織する。

- ・研修・厚生部…給食試食会やふれあい交流会などを計画、実施

【 沓掛小学校 P T A組織図 】



3 実践活動の概要

(1) 子どもの安全を守る取組

① 自転車点検

自転車による交通事故を少しでも減らすために、自転車を利用する場である家庭と協力して自転車点検を実施した。学校だけで自転車の安全教育に取り組むよりも、保護者とともに取り組むことで、子どもたちに自転車の乗り方に対する安全意識を高めさせることができた。

【 P T A発信の自転車点検お願い】

調査項目 (調べることから)		家庭での点検 (×は修理)	修理後の点検 (○×)
※ 評価記号 ○よい ×よくない (修理済は○)			
1	前輪のブレーキのききぐあいは		
2	後輪のブレーキのききぐあいは		
3	タイヤの空気圧や状態(さずの有無、すりへりぐあいは)		
4	ハンドルの状態(ゆがみの有無)や動きぐあいは		
5	サドルの位置(両足の先が地面につく)は		
6	ベルまたはブザーはしっかり鳴るか		
7	反射板はついているか (なくてもよい)		
8	手入れ状態(きれい、さしみはない、がたつきはない)は		
9	ライトのつき具合は(ライトはきちんとつく)は		
※	ヘルメットの状態はよい (か) (あてひもはきちんと留められるか) (か) (かたつきはない) (か)		

* 自転車に乗るときは、ヘルメットをきちんとかぶろう。

点検が終わったら、5月31日(金)までに担任の先生に出してください。

自転車を持っていないので、点検していません。

点検者(保護者)氏名

印

担任印

② 親子による通学路等の安全点検

親子で安全点検を行うことで、子どもが自分で身近な危険箇所を確認し、自分の安全は自分で守ろうという意識をもたせることを目的に実施している。通学路や子どもがよく遊びに行く場所などを親子で歩き、子どもにとって危険と思われる場所を確認して地図に「×」印で記入し、同時に「子ども110番の家」も確認している。

その後、安全点検の地図を回収し、通学団担当教員が通学路の危険箇所を確認して、通学団の児童に周知指導している。

③ 夏休み校外パトロール

夏休みの期間中、週に1回程度学区のパトロールをPTAの安全部が主体となって実施している。夏祭りや盆踊りなどの地区行事のときにはパトロールを強化して行っている。その際、保護者の負担になり過ぎないように、「ながら見守り」として、何かの用事のついでにパトロールしてもらうようにしている。

(2) 子どもの教育活動への取組

① 学習ボランティア

ア 5年生 家庭科

5年生家庭科「ひと針に心をこめて」の学習では、手縫いに挑戦し、玉結び、玉どめや縫い方、ボタン付け、小物作りなどの活動を行う。5年生になって初めての裁縫という

ことで、針と糸の扱いに慣れていない児童への指導を担任一人で対応するのは、大変厳しい状況であった。この状況を解決するために、補助をPTAに依頼し、学習ボランティアを募ったところ数多くの学習ボランティアに参加していただき、安全に裁縫学習を行うことができた。



イ 6年生 家庭科

6年生家庭科「ミシンにトライ！ 手作り楽しい生活」の学習では、ミシンを使ってナップザックを製作する。児童は5年生でミシンを使った経験はあるものの、数台のミシンを同時に使用するとなると、技術面や安全面について、担任一人では十分指導することができない状況で



【ミシン学習の様子】

あった。この状況を解決するために、PTAに依頼し、学習ボランティアを募った。ミシンを使っている間に起こるトラブルにも素早く対応していただき、児童も安心して活動することができた。また、担任にとっても大変心強く、安心して授業を進めることができた。

② 読み聞かせボランティア

各学期に数回、朝の読書の時間に「くつつほうし」の読み聞かせボランティアによる読み聞かせ活動を行っている。子どもたちに人気の絵本や季節の行事に合わせた絵本、我が子に読んであげたい絵本を選び、声色を変えての読み聞かせに子どもたちは本の世界に引き込まれていった。また絵本を読むだけでなく、朗読劇や大型紙芝居など聞き手の



【大型紙芝居の様子】

子どもが楽しめる工夫をしながら、読み聞かせを実施していただいている。読書離れが危惧される時代だからこそ、子どもたちに読書の魅力を伝える貴重な機会になっている。

③ 畑ボランティア

本校は、広大な畑を地域の方から借用し、勤労生産活動に取り組んでいる。1年生は生活科で、サツマイモを育成・収穫し、最後には焼き芋にして秋を味わう学習を行っている。サツマイモを収穫する際、1年生ではサツマイモのツルを切ることが難しかったり、除草シートが作業の妨げになったりするため、事前に取り除く必要があった。そこで、これまで教員が授業後に行っていた作業を畑ボランティアに依頼して、手伝っていただくことができた。

4 おわりに

今回の研究を通して、子どもたちが充実した学校生活を送るためには、学校と家庭・地域の連携が欠かせないことがよく分かった。それを継続していくためには、保護者や地域の方々の負担を少なくし、数多くの方が協働しやすい環境をつくっていくことが大変有効であると改めて実感した。「できるときにできる人が できることを 楽しんで」を合言葉に、子どもたちの教育に関わってもらえる工夫を重ねてPTA活動をさらに推進していきたい。